



ブナの苗木を植樹(新潟県高根集落)



ブナを植樹した下に広がる棚田(新潟県高根集落)

平成14年に始まった「森の聞き書き甲子園」は、日本全国の高校生が森に関わる経験や技術を先人から受け継いでいる「名人」を訪ね、その生き方を聞き書きし、記録する活動です。NPO法人共存の森ネットワークは、「森の聞き書き甲子園」に参加した高校生や大学生の森づくり・地域づくりの活動を母体に、平成19年に設立され、森と人の暮らしをつなぐ活動に取り組んでいます。

### 森の聞き書き甲子園

平成14年、社団法人国土緑化推進機構は、造林手、炭焼き職人、漆掻き職人など、森を守り、育て、その恵みを活かす知恵や技術を継承する人々を「森の名医・名人」とし

て選定・表彰するのを始めました。これと合わせ、林野庁と文部科学省が全国から高校生100人を募集し、「森の聞き書き甲子園」を実施するようになりました。

「聞き書き」とは、文字通り、相手の話を聞き、その語り口を活かして文章にまとめ

る手法です。聞き手の質問によって話し手の語る内容も変化するので、高校生は「聞き書き」を通して森の名人と対話することになります。そのようにして、異なる世代間のコミュニケーションが生まれ、積み重ねられてきました。

「森の聞き書き甲子園」は、平成22年で9回目を数えます。現在は、林野庁、文部科学省、社団法人国土緑化推進機構、共存の森ネットワークの4者で形成する実行委員会によって運営されています。



地域の未来を描く(新潟県高根集落)



都会の人たちにアピール、活動の輪を広げる(東京朝市)

この運営を通じ、森と人の暮らしを考える高校生を育てることは、現在も共存の森ネットワークの活動の柱となっています。

## 「共存の森」の活動

「森の聞き書き甲子園」に参加し、森と共に生きてきた名人の言葉に心を動かされた高校生たちが、ただ話を聞いただけで終わりにしたくないという思いから、森づくり・地域づくりの活動を始めるようになりしました。

森の名人と一緒に森に入り、炭焼きや山菜採りなどの暮らしの知恵を体験したり、地域のお年寄りに話を聞き、山村の将来について語り合ったり。「森の聞き書き甲子園」の卒業



炭焼き名人に話を聞く(愛知県椿立自治区)

生の呼びかけで始まった活動の輪は、卒業生以外の学生たちにも広がっています。平成15年に千葉県原市の里山をフィールドに活動が始まり、現在は全国5地区で森づくり・地域づくりを行なっています。

5地区は、山形県飯豊町中津川地区、新潟県村上市高根集落、千葉県原市の県有林「鶴舞創造の森」と近隣の山小川集落、愛知県豊田市椿立自治区、滋賀県の龍谷大学瀬田キャンパス内「龍谷の森」に隣接する堂集落です。

## ブナの木を植える

その1つ、新潟県の高根集落では、平成19年の春、集落の人たちと共存の森ネット



地域の人たちと共に(愛知県椿立自治区)

ワークの学生たち、総勢60人で、約1300本のブナの木を植樹しました。

植樹した天蓋高原は、棚田の最上部に位置する、集落の共有地です。かつて、ここでは牛の放牧が営まれていましたが、牛を飼わなくなり、外の業者に土地を貸した所、大量の鶏糞が捨てられるようになってしまいました。これでは、棚田の水源が汚染されるかもしれないと考えた高根の人たちは、業者から土地を取り戻しました。学生たちは、そこにブナを植えました。その後、学生たちは春から

秋にかけて毎月1回の頻度で高根に通い、ブナの下草刈りを行ない、その生長を観察し記録しています。植樹したブナが森になる50年先まで、高根との交流を続けていきたいという思いで、活動に取り組んでいます。

## ドキュメンタリー映画

### 「森聞き」

平成20年から制作が進められていた映画「森聞き」(制作：プロダクション・エイシア、監督：柴田昌平)が、平成23年春から、全国数か所で一斉公開される予定です。この映画は、第7回「森の聞き書き甲子園」に参加した4組の高校生と「森の名人」との出会いを描いたものです。

多くの人に映画を見ていただき、「聞くこと」から始める森づくり、地域づくりの輪をさらに広げていきたいと、共存の森ネットワークでは考えています。



森と共に生きてきた地域の歴史を知る(愛知県椿立自治区)

## 共存の森ネットワーク

- 会員数 正会員:71人 賛助会員:20人(平成22年6月現在)
- 森づくり活動フィールド 山形県中津川地区、新潟県高根集落、千葉県原市、愛知県豊田市、滋賀県龍谷大学瀬田キャンパス内
- 活動日 各地区活動計画による
- ホームページ <http://www.kyouzon.org/>